

御殿場市地域公共交通計画に係る施策の進捗状況について

本計画では、本市の地域公共交通ネットワークを継続的に、より使いやすく改善していく仕組みとして、目標を定め、目標を達成するための施策を実施し、目標の達成状況は数値目標により、定期的に評価、検証を行っております。

1. 実施主体

計画の目標を達成するために行う施策の実施主体と関連主体を以下に示します。

目標	実施施策	実施主体◎ 関連主体○		
		行政	交通事業者	地域
(1) 公共交通維持のための利用促進の推進及び認知度の向上	バス等の公共交通に親しみを感じられるようなイベント等の実施	◎	◎	
	学校や各種団体等に対するバスの乗り方教室の開催	○	◎	○
	地域住民の実態やニーズ等を把握するためのアンケート調査等の実施	◎		
	ワークショップや意見交換会の開催	◎	○	○
	広報紙等での公共交通施策等の周知	◎		
	企業等のノーカーデーを通じての公共交通利用の啓発	◎		
(2) 公共交通空白地域の解消	公共交通空白地域での新たな公共交通システムの導入	◎	○	◎
(3) 路線バスネットワークの充実	日常生活交通バス路線の確保維持と、地域拠点等の連携強化のための、バス路線再編・新設の検討	○	◎	○
	道路整備に応じた路線の再編、ルート変更の実施	○	◎	○
(4) 公共交通に関する情報提供の充実	総合的な地域公共交通マップの作成	◎	○	
	新たな感染症への対応に関する情報発信（安全・安心情報の提供）	◎	◎	
	公共施設や観光、商業施設案内等における公共交通案内の併記促進	◎	○	
	案内情報の多言語化の促進及び新たな情報発信手段の活用	◎	◎	
	乗り継ぎ拠点や待合拠点としての公	○	◎	

(5) 交通結節点での利便性向上	公共交通施設の活用と路線の乗り入れ			
	バス停施設やベンチ等の整備促進	○	◎	

表7-2 施策目標に対する実施施策

2. 数値指標

施策を実施していく上で、達成すべき数値目標及び現状値を以下に示します。

(1) 公共交通維持のための利用促進の推進及び認知度の向上

数値指標	地区および対象	計画策定時	現状値	目標値 (令和7年度)
公共交通に関するイベントの実施回数	—	1回/年 (R2)	1回/年	2回以上/年
郊外部での公共交通利用に対する満足度	高根	2.06 ^{※1} (R1)	—	2.20
	富士岡	2.21 ^{※1} (R1)	—	2.40
	印野	2.20 ^{※1} (R1)	—	2.40
	玉穂	2.49 ^{※1} (R1)	—	2.70
道路・交通における重要度	—	4.43 ^{※2} (R1)	—	4.70

※1 御殿場市市民意識調査「政策方針6. 富士山の麓にふさわしい美しく快適なまちづくり
6-7 公共交通の利便性の向上 バスや鉄道などの公共交通網が整備されていると思う。」における各地区の満足度スコア

※2 御殿場市市民意識調査「御殿場市政に重要な14項目の満足度と重要度
13 道路・交通 道路や公共交通が、歩行者と環境に配慮して整備されている。」における重要度スコア

(2) 公共交通空白地域の解消

数値指標	地区および対象	計画策定時	現状値	目標値 (令和7年度)
移動支援サービスを実施する区の数	—	2区	4区	5区
郊外部での公共交通利用に対する満足度(再掲)	高根	2.06	—	2.20
	富士岡	2.21	—	2.40

(3) 路線バスネットワークの充実

数値指標	地区および対象	計画策定時	現状値	目標値 (令和7年度)
市全体の年間路線バス利用者数	—	781,430 人 (H30)	599,765 人 (R2)	785,000 人
郊外部での公共交通利用 に対する満足度（再掲）	高根	2.06	—	2.20
	富士岡	2.21	—	2.40
	印野	2.20	—	2.40
	玉穂	2.49	—	2.70

(4) 公共交通に関する情報提供の充実

数値指標	地区および対象	計画策定時	現状値	目標値 (令和7年度)
市全体の年間路線バス利用者数（再掲）	—	781,430 人 (H30)	599,765 人 (R2)	785,000 人

(5) 交通結節点での利便性向上

数値指標	地区および対象	計画策定時	現状値	目標値 (令和7年度)
鉄道駅での1日平均乗降客数	御殿場駅	9,762 人 (H30)	9,896 人 (R1)	11,000 人
	富士岡駅	2,194 人 (H30)	2,240 人 (R1)	2,200 人

※満足度及び重要度の調査については、市一括で行う市民意識調査に合せて調査を実施（5年に1回程度）

※各政策に対する満足度・重要度の計算方法

■満足度

【スコア計算方法】

各回答者数に右の得点を乗じ、回答者数で除す。

満足	まあ満足	どちらともいえない	やや不満	不満
5	4	3	2	1

■重要度

【スコア計算方法】

各回答者数に右の得点を乗じ、回答者数で除す。

重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要ではない	重要ではない
5	4	3	2	1

3. 総合的な実施評価

各数値目標の達成状況と合わせて、福祉、観光等の総合的なまちづくりと連携した取組状況を踏まえ、総合的な評価を実施します。

(1) 公共交通維持のための利用促進の推進及び認知度の向上

事業主体	今年度の取組実施状況
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・「GOTEMBA BUS FES 2021」を12月25日に実施（来場者数約500名） ・イベントの情報発信として、地元FM富士山GOGOFMに富士急モビリティ担当者と一緒に出演し、情報発信を実施 ・市内幼・保園長会や小学校校長会、区長会において公共交通の利用促進運動への協力について依頼
富士急モビリティ(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・「GOTEMBA BUS FES 2021」にて、車両展示（電気バス・運転士教育訓練車）やオリジナル定期券作成体験等を出展 ・地域の小学校（計12校）においてバスの乗り方教室を実施
箱根登山バス(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・箱根の森小学校2年生が「町探検」として宮城野営業所に来訪し、地域の人たちとの交流や地域の特徴の学習を行ったほか、バスの乗り方やバス運行時の安全面などの学習体験を実施
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・各区の区長を通じて、公共交通の利用を促す

【評価・次年度に向けた課題や取組】

新型コロナウイルスの影響により、多くのイベントの中止、延期される中、行政、事業者、地域が協力してできる範囲の利用促進施策を行った。

今後も公共交通を身近に感じることでできるイベントの実施だけではなく、地域に寄り添ったバスに触れ合う機会を増やすことで利用促進の推進及び認知度の向上を図っていく。

(2) 公共交通空白地域の解消

事業主体	今年度の取組実施状況
行政	移動支援サービスを開始する前の発足検討会議等に公共交通事業を担当する立場で出席し、助言を行った。
富士急モビリティ(株)	移動支援サービスの実施箇所について行政と情報共有を実施。 ※要望等がある場合、指示していただく。
地域	昨年度までに実施が開始されている中畑北区、北久原区に加えて、二の岡区・東山区が合同で移動支援サービスを開始した。さらに、今年度新たに駒門区においても他の事例を参考に独自に送迎支援の会議が開始

【評価・次年度に向けた課題や取組】

公共交通空白地域を解消するためにも、区ごとに地域の助け合いによる移動支援サービスが必要不可

欠となっている。市社会福祉協議会を中心に地域の福祉団体や地域が積極的に移動支援サービスの拡大を進めている。行政も地域と事業者との懸け橋となることで事業が拡大していくように協力して取り組んでいく。

(3) 路線バスネットワークの充実

事業主体	今年度の取組実施状況
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・市の SNS を活用し、事業者の取組についての情報発信を実施 ・地域の路線バスネットワークの確保維持を行うため、御殿場市バス交通活性化対策事業を実施
富士急モビリティ(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・周遊きっぷの新設や小学校の長期休暇を活用したワンコインバスのキャンペーンの実施 ・御殿場バイパス開通による路線の再編及び、慢性遅延路線において、ルート変更や迂回ルートの設定を検討
箱根登山バス(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・御殿場市内聖火リレーの交通規制に対応したダイヤで運行
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の路線バスネットワークの確保維持を行うため、御殿場市バス交通活性化対策事業を実施

【評価・次年度に向けた課題や取組】

新たな感染症により外出が減っている中でも公共交通事業者は、利用者にとって公共交通を使いやすいような施策を検討し、行政と事業者が協力して広報活動を行った。

ワクチンの効果もあり、新型コロナウイルス感染者も以前より減少傾向となっており、外出機会も増えてきているため、事業者だけではなく、行政も協力して公共交通を利用してもらえるような施策を検討する。

(4) 公共交通に関する情報提供の充実

事業主体	今年度の取組実施状況
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙への利用促進記事の掲載 ・地元 FM 富士山 GOGOFM を活用した公共交通の利用促進に関する情報発信を実施
富士急モビリティ(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・車体側面に抗菌済みステッカーを貼り安全性を PR ・HP・SNS・車内広告にて感染症対策の実施依頼を掲出 ・バス車内デジタル表示板の多言語表記 ・WEB サイトでの多言語情報提供 ・観光路線において多言語リーフレットの作成 ・行先系統アルファベット表記
箱根登山バス(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・車内広告にて新型コロナウイルス感染拡大防止リーフレットを掲出 ・自社ホームページで新型コロナウイルス感染拡大防止の情報発信（自社取り組み事項の公表および時差通勤や混雑回避に役立つよう路線バス混雑状況の公表）

	・箱根ナビ（小田急グループの箱根エリアの紹介 WEB サイト）について、箱根観光プラットフォーム（共通基盤）へリニューアルし、新しい旅行体験の提供を目指した観光型 MaaS を本格的に開始
--	--

【評価・次年度に向けた課題や取組】

行政、事業者が独自に様々な公共交通に関する情報発信を進めることで利用者が知りたい情報をすぐ発見できる仕組みが確立されはじめている。

今後、行政として事業者の取組をどのように効果的に発信できるかが課題となる。

（５）交通結節点での利便性向上

事業主体	今年度の取組実施状況
行政	・安全性と景観の確保を行うため、御殿場市役所バス待合施設の撤去を事業者と協議
富士急モビリティ(株)	・青少年交流の家線の一部を市民交流センターへ乗り入れ（10 便/日） ・バス停表示板 104 ヶ所の更新実施 ・老朽化による安全性確保のため、御殿場市役所バス待合施設の撤去
箱根登山バス(株)	・御殿場市観光協会「富士山御殿場・はこね観光案内所」が 2020 年 2 月に移転したことにあわせて、御殿場駅箱根乙女口駅始発天悠行の路線バスを増便

【評価・次年度に向けた課題や取組】

現在、新型コロナウイルス等の新たな感染症拡大によりインバウンド客は減少しているが、ワクチン等の影響により今後インバウンド客数が回復に向かう可能性もある。御殿場駅を中心に関東方面や沼津方面のインバウンド客だけではなく、山梨方面、箱根方面への充実した交通手段を確保できるように交通事業者と協議を行う。

御殿場市地域公共交通計画の目標と施策（第7章）

（1）公共交通維持のための利用促進及び認知度の向上

【目標】

既存の路線バス網等の公共交通を確保・維持していくためにイベントや各種広報媒体を利用して利用促進を進め、認知度を高めます。また、市民へのアンケート調査やワークショップ等の開催を通じて市民ニーズを把握するとともに、市民や企業等の公共交通に対する理解と自発的な利用意識の醸成を促進します。

【施策】

- ・事業者と連携し、バスをはじめ公共交通に親しみを感じられるようなイベント等を実施します。
- ・学校や各種団体等に対するバスの乗り方教室の開催や、企業等のノーカーデーを通じて公共交通の利用を啓発します。
- ・地域住民の実態やニーズ等を把握するためのアンケート調査等を実施します。
- ・公共交通のニーズ把握のための地域住民参加型のワークショップや意見交換会を実施します。
- ・バスの日（9月20日）をはじめ、市広報紙やホームページ等の広報媒体を活用した、公共交通施策や公共交通整備内容等の周知を行います。



バス事業者による出店
富士岡公園まつり（令和元年5月）



高齢者向けのバスの乗り方教室
（令和元年11月）

（2）公共交通空白地域の解消

【目標】

道路の整備状況、地域の声等を総合的に踏まえたうえで新たな交通モードや地域が主体となった移動支援サービスを構築し、公共交通空白地域を解消し、地域住民の移動の確保を目指します。

【施策】

- ・公共交通空白地域の解消を図るために次世代モビリティ等先端技術を活用した新たな公共交通

システム等の検討を行うとともに、移動支援サービス等福祉施策等と連携した公共交通システムの導入を進めます。

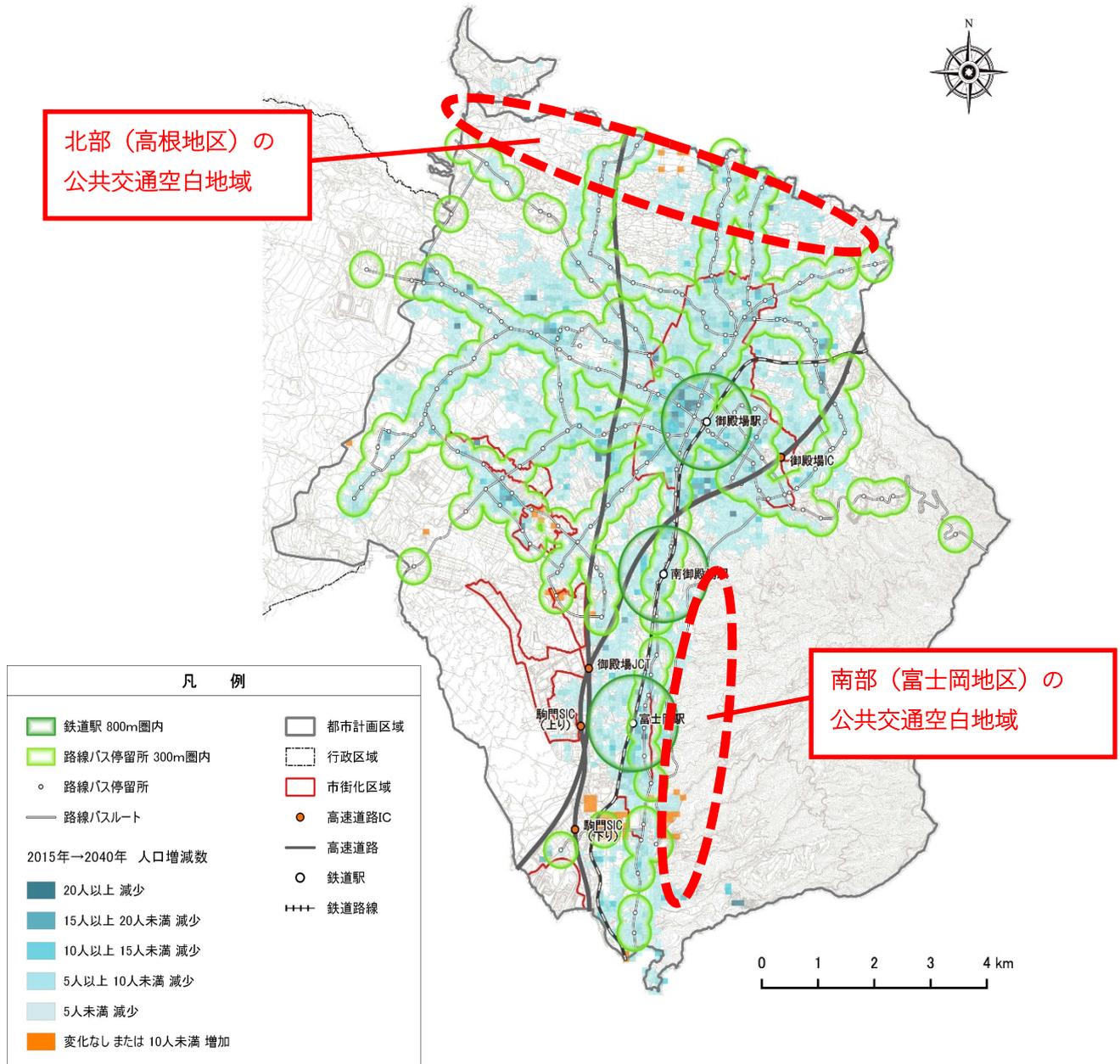


図 7 - 1 公共交通空白地域図

(3) 路線バスネットワークの充実

【目標】

地域間幹線系統については、本市バス交通網の骨格をなすとともに、地域間を跨ぎ広域的な交流ネットワークを形成する上で重要な路線であることから、引き続き路線の確保維持を図ります。また、地域間幹線系統以外の路線のうち、事業者単独での運行継続が困難な路線について日常生活交通として存続が必要と判断される路線については同様に確保維持を図ります。

それに加え、路線バスの系統別の役割や利用者の推移、地域特性や道路整備状況等を考慮した

上で、バス路線の再編や新設を検討し、移動の利便性を向上させるための路線バスネットワークの充実を図ります。

【施策】

- ・地域の利用実態やニーズの検証等を行い、補助等により路線バスネットワークの確保維持を行うほか、地域拠点、観光拠点、産業拠点との連携等地域特性や状況の変化に応じたバス路線の再編を実施するとともに路線の新設を検討します。
- ・国道 138 号バイパス関連事業をはじめ、道路整備に応じた路線の再編、ルート変更を実施します。

	路線名	バス路線確保維持等の方針
幹線系統	御殿場線	複数の市を跨ぐ広域的な交流ネットワークを形成し、市バス路線網の基幹となる地域間幹線系統として確保維持を図る。
	駿河小山線	広域的な交流ネットワークを形成し、市バス路線網の基幹となる地域間幹線系統として確保維持を図る。
	十里木線	広域的な交流ネットワークを形成し、市バス路線網の基幹となる地域間幹線系統として確保維持を図る。
	河口湖線	広域的な交流ネットワークを形成し、市バス路線網の基幹となる地域間幹線系統として確保維持を図る。
支線系統	小山高校線	小山町と本市を跨ぐ日常生活交通路線として確保維持を図る。
	中日向線	小山町と本市を跨ぐ日常生活交通路線として確保維持を図る。
	富士霊園線	小山町と本市を跨ぐ日常生活交通路線として確保維持を図る。 参拝等の市外からの利用者を取り込み、確保維持を図る。
	滝ヶ原線	地域間幹線系統と並ぶ基幹バス路線として確保維持を図る。 地域拠点施設や他路線との連携による利便性向上を検討する。
	板妻・神場循環線	日常生活交通路線として確保維持を図る。
	神場・北の原線	日常生活交通路線として確保維持を図る。
	神場南循環線	日常生活交通路線として確保維持を図る。
	東山循環線	日常生活交通路線として確保維持を図る。 観光施設と連携し市外からの利用者を取り込み、確保維持を図る。
	東田中線	日常生活交通路線として確保維持を図る。
板妻経由 印野本村線	日常生活交通路線として確保維持を図る。他の路線との連携による利便性の向上を検討する。	

中畑経由 印野本村線	日常生活交通路線として確保維持を図る。他の路線との連携による利便性の向上を検討する。
チアーズガーデン 循環線	日常生活交通路線として確保維持を図る。 地域拠点施設や他路線との連携による利便性向上を検討する。

※各路線の運行実態については、巻末資料として掲載

表7-1 バス路線確保維持等の方針

(4) 公共交通に関する情報提供の充実

【目標】

鉄道、路線バス等の公共交通の運行情報や利用割引情報等分かりやすく提供できるしくみを作り、公共交通の利便性向上と利用促進を目指します。

【施策】

- ・バス路線の運行経路や乗り継ぎ場所、割引サービス等を掲載した総合的な地域公共交通マップの見直し、改良を行い、実情にあったより使いやすいマップを作成します。
- ・新しい生活様式に対応した公共交通をPRするためにさまざまな広報媒体等を用いて情報発信を行います。
- ・公共施設や観光、商業施設案内等における、バス経路や時刻表等の公共交通利用案内の併記を促進します。
- ・外国人観光客等の公共交通利用に対応するために、案内情報の多言語化を促進するとともに、MaaS (Mobility as a Service) 等、新たな情報発信手段を活用した情報提供を促進します。



図7-2 広報ごてんば関連記事
タクシー・バスの感染防止対策
～安心して利用してください～
(御殿場市広報紙 令和2年10月)

(5) 交通結節点での利便性向上

【目標】

公共交通相互が連携し、また多様な輸送資源とともに面的なネットワークを形成するために、鉄道駅や地域拠点における乗り継ぎ環境や待合環境の整備により、交通結節点での利便性向上を目指します。

【施策】

- ・路線バスの乗り継ぎ拠点や待合拠点として、市民交流センターふじざくら等といった公共施設の活用と路線の乗り入れを検討します。
- ・バス停施設やベンチ等の整備を促進し、路線バスの待合環境を改善します。